

科目	考究現代文		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学 年	2	学 科	普通科 理数科
使用教科書	精選 論理国語（東京書籍） 文学国語（東京書籍）		副教材等		『大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000』（尚文出版）、 その他各種問題集					
学習の目標	近代以降の様々な文章を読み的確に理解するとともに適切に表現する能力を育む。また、文学的文章と論理的文章を結びつけて読み比べることで、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語力の向上を図り、人生を豊かにする態度を養う。									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力・語彙力の向上に努めること。 ・文章の読み方や問題への対処法について確実に身につけること。特に復習が重要である。 ・書いたり話したりして、表現しようとする姿勢が重要である。諦めてはいけない。 ・主体的・積極的に取り組む姿勢が重要である。受動的ではいけない。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考（使用教材）			時数	
4 5 6	評論① 小説① 評論②	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・自らの意見を効果的に表現する力を付ける。（全単元） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・表現の特徴に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・立場を明確にして、自己の体験を踏まえて意見を書く。（評論分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「いつもそばには本があった」（國分功一郎） ・「ミロのヴィーナス」（清岡卓行） ・「山月記」（中島敦） 			15	
第1回考査										1
6 7 8 9	随想 詩歌① 評論③ 小説②	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・筆者の見解を応用する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（詩歌分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・細部の表現に注目し、どのようなことを言っているか（評論分野）、どのような心情が述べられているか（小説分野）を的確に捉える。 ・評論との読み比べを通して、美を語る手法について考えを深める。（随想分野） ・作品の成立した背景などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。（詩歌分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光の窓」（小池昌代） ・「永訣の朝」（宮沢賢治） ・「メディアの変容」（土井隆義） ・「窓」（いしいしんじ） 			16	
第2回考査										1
9 10 11	評論④ 小説③ 評論⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、鑑賞する力を付ける。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・筆者の見解を踏まえて具体的事象について分析する。（全単元） ・文章を批評することを通して自分の考えを深め、発展させる。（評論分野） ・小説で描かれた内容を自分に引きつけて考えるとともに感想を伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・『リスク』と『リスク社会』（神里達博） ・「こころ」（夏目漱石） ・「消費されるスポーツ」（多木浩二） 			15	
第3回考査										1
12 1 2 3	小説③ 評論⑥ 小説④	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に読解する力を付ける。（全単元） ・他の資料等を読み比べる力を付ける。（評論分野） ・ものの見方・考え方を豊かにする。（小説分野） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成、展開、要旨を的確に捉える。（全単元） ・関連する文章や資料を基に、作者の立場や目的を考えながら内容の解釈を深める。（全単元） ・物語の展開や状況の変化に注意して読み、現代の社会や自らの生活を捉え直すとともに感想を伝え合う。（小説分野） 			<ul style="list-style-type: none"> ・「鞆」（安部公房） ・「日本人の美意識」（高階秀爾） ・「あの朝」（角田光代） 			15	
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。		論理的思考力や想像力、創造力を養い、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。				
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト等を総合的に判断し評価。		定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。			課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

科目	古典探究		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科・理 数科	
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編 高等学校 古典探究 漢文編 (ともに第一学習社)		副教材等		新修古典文法(京都書房)、精説漢文(いっずな書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、その他各種問題集						
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組むこと。 ・多様な文章に触れ、読み慣れること。 ・探究的な学びを意識すること。 										
月	単元名	指導目標	学習内容			備考(使用教材)	時数				
4 5 6	[古文] 物語1 和歌 [漢文] 故事・寓 話	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。(全単元) ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(古文分野) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。(全単元) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。(全単元) ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語彙を豊かにする。 [活動] 同じ題材を取り上げた複数の作品を読み比べ、関心や疑問を持ったことについて調べて日発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「かぐや姫の昇天」(竹取物語) ・和歌(万葉集)(古今和歌集)(新古今和歌集) ・「推敲」(唐詩紀事)「吳越同舟」(孫子)「嬰逆鱗」(韓非子)「知音」(呂氏春秋) 	15				
第1回考査											1
6 7 8 9	[古文] 随筆1 [漢文] 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(全単元) ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。(古文分野) ・古典が現代の言葉の成り立ちに及ぼした影響について理解を深める。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・読解に必要な敬語・助詞(古文分野)や、句形(漢文分野)などの基本事項を理解する。 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。(漢文分野) [活動] 四字熟語や言葉の由来となった漢文を探す。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「宮に初めて参りたるころ」(枕草子) ・「鴻門の会」(史記) ・「四面楚歌」(史記) 	15				
第2回考査											1
9 10 11	[古文] 物語2 [漢文] 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・源氏物語を読む楽しさを実感する。(古文分野) ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。(漢文分野) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。(古文分野) ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。(古文分野) ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。(漢文分野) [活動] 源氏物語が影響を受けた作品、影響を与えた作品を挙げて、源氏物語の魅力について考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光る君誕生」「若紫」(源氏物語) ・「不出門」(菅原道真)「送夏目漱石之伊予」(正岡子規) ・「売鬼」(搜神記) 	15				
第3回考査											1
12 1 2 3	[古文] 物語2 [漢文] 諸家の 思想	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。(古文分野) ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、社会に対する自分の考えを広げたり深めたりする。(漢文分野) [活動] 違う作品では登場人物がどのように描かれているのか相違点と共通点をまとめ発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「弓争い」(大鏡) ・「性善」(孟子)「侵官之害」(韓非子) 	15				

第4回考査			1
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通した先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、探究のレポート・発表等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み、探究の内容等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。

令和6年度シラバス【 考究古典 】

長野県伊那北高等学校

科目	考究古典	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科・理 数科(学際 コース)	
使用教科書	高等学校 古典探究 古文編 高等学校 古典探究 漢文編 (ともに第一学習社)	副教材等		新修古典文法(京都書房)、精説漢文(いづな書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、その他各種問題集						
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、日本の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 									
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・句法力の向上に努めること。 ・単語・語彙力の向上に努めること。 ・主体的・積極的に取り組むこと。 ・多様な文章に触れ、読み慣れること。 ・探究的な学びを意識すること。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考(使用教材)		時数		
4 5 6	[古文] 物語1 和歌 [漢文] 故事・寓 話	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や内容を的確に読み取り、さまざまな見方、考え方に触れる。(全単元) ・和歌に関する基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(古文分野) ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。(全単元) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉えるとともに、文章に表れた生き方・考え方について、意見や感想を述べ合う。(全単元) ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語彙を豊かにする。 [活動] 本歌取り、引き歌を探す。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「かぐや姫の昇天」(竹取物語) ・和歌(万葉集)(古今和歌集)(新古今和歌集) ・「推敲」(唐詩紀事)「呉越同舟」(孫子)「嬰逆鱗」(韓非子)「知音」(呂氏春秋) 		15		
第1回考査										1
6 7 8 9	[古文] 随筆1 [漢文] 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むための基礎知識を身につけ、活用する力を付ける。(全単元) ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・随筆や物語を読む楽しさを感じる。(古文分野) ・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・読解に必要な敬語・助詞(古文分野)や、句形(漢文分野)などの基本事項を理解する。 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考え、意見交流をする。(漢文分野) ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。(漢文分野) [活動] 四字熟語や言葉の由来となった漢文を探す。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「宮に初めて参りたるころ」(枕草子) ・「鴻門の会」(史記) ・「四面楚歌」(史記) 		15		
第2回考査										1
9 10 11	[古文] 物語2 [漢文] 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・人物を整理しながら、話の流れを理解する。(全単元) ・源氏物語を読む楽しさを実感する。(古文分野) ・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。(漢文分野) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。(古文分野) ・文学史を理解した上で、文法、内容や表現の特色を理解する。(古文分野) ・歴史上の人物の行動や心情について考えるとともに、その生き方を通して、人間のあり方について関心を深める。(漢文分野) [活動] 源氏物語が影響を受けた作品、影響を与えた作品を挙げ、源氏物語の魅力について考える。 ・日本人の作った漢詩を読み、中国の文化が日本人 			<ul style="list-style-type: none"> ・「光る君誕生」「若紫」(源氏物語) ・「不出門」(菅原道真)「送夏目漱石之伊予」(正岡子規) ・「壳鬼」(搜神記) 		15		

		を深め、作品の価値について考察する。	にどのような影響を与えたかを考察してレポートを作成する。		
第3回考査					1
12 1 2 3	[古文] 物語2 [漢文] 諸家の 思想	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る力を付ける。(漢文分野) [活動] 諸子百家の思想を自分の身の回りの事柄に応用できるかを考え、グループで考えをまとめて発表する。	・和歌の技法などの基本事項を理解するとともに、優れた表現を味わう。(古文分野) ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。(古文分野) ・文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、社会に対する自分の考えを広げたり深めたりする。(漢文分野)	・「弓争い」(大鏡) ・「性善」(孟子)「侵官之害」(韓非子)	15
第4回考査					1
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通じた先人の見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思考を広げたり深めたりしようとしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価方法	定期考査、課題テスト、小テスト、探究のレポート・発表等を総合的に判断し評価。	定期考査、課題テスト、課題プリントや授業への取り組み、探究の内容等を総合的に判断し評価。	課題等の提出、課題プリントや授業への取り組み等を総合的に判断し評価。		

数 学

(1) 学習の心構え

学習以外にもいえることですが、何事にも時間や手間をかけないとできるようになったり、うまくなったりはしません。基本から始めて着実に丁寧に正しく積み重ねていけば必ず力がつきます。すぐに結果や点数に結びつくことはほとんどありません。継続的に学習することが一番の近道です。

自力でじっくり考えることが大切です。ひとつの問いに対して「こうやればうまくいきそうだな」「この道筋でやってもだめだから違うやり方でやってみよう」とかが大切です。最終的に自力ではわからなかったとしてもその過程で「今自分が知っていることをフル活用していろいろ考えてみた」ということは必ず自分の力になります。時間には限りがありますが、自力で考えることを大事にしてください。

学習したことについて問題演習（レベルが高い問題も含めて）を積極的に行い、アウトプットの量を増やしましょう。一つの問いに対して答えに行きつくまでの道のり一つとは限りません。いろいろな道のり、いろいろな角度から考えることもとても大切です。問題演習をする際は、答えがあっていた場合でも別解があればそれも理解しましょう。考え方の武器が増えます。また互いに教え合う、考え合うことで自分では気づかなかった道筋や考え方が発見でき一人で学習するより互いの力を高めます。

(2) 学習の方法

毎日の授業を大切に、家庭学習を継続して下さい。その日に学習したことは必ず復習をし、内容の理解を確かなものとなるように完成ノートA問題を解きましょう。完成ノートA問題は授業のペースに合わせて進めて下さい。数学が苦手だと感じる人は特に復習をきちんと行うとよいでしょう。疑問点や理解できない部分は放置せずに先生に質問をしましょう。授業中や問題演習をする際のノートの使い方ですが、できるだけゆとりをもって説明や解答を書くようにしましょう。図やグラフを大きくすることも大事ですし、後々自分で書き込みができるようにしておきましょう。また、授業用ノート、個人でやる演習ノート、テストや模試の間違い集約ノートなど用途に分けてノートを用意するとよいでしょう。

(3) 教材の使い方

- ・教科書・・・一番基本となるものです。書かれていることを丁寧に読みましょう。行間が省略されている場合は、省略部分を読み取ることも大切です。公式、例題、練習以外のところもきちんと理解することを意識してください。
- ・問題集（クリアー・4STEP）・・・基本問題、応用問題の演習を繰り返し行います。土台作りのためにその日学習した部分は毎日やり、継続して繰り返し取り組んで下さい。定期的に提出してもらいます。
- ・チャート・・・問題の解法を確認、理解する。授業では扱わないが、大学入試では重要となる問題が多く掲載されています。例題を理解したあと練習問題に自力で取り組んでみましょう。発展的な内容もあるので積極的に目を通しましょう。

(4) 成績の評価方法

定期考査の点数、Weeklyテストの点数、提出物の内容と提出状況、出欠状況

2. 数学

令和6年度シラバス【数学ⅡBC】：文系

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C						
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	図形と方程式	それぞれの単元	点と直線, 円の方程式, 円と直線, 軌跡と領域			↓数学Ⅱ	15		
5	三角関数	での定義などを	三角関数, 加法定理				18		
6	指数関数・対数関数	理解し、演習につなげていく	指数の拡張, 指数関数, 対数関数, 常用対数				12		
第1回考査							1		
6	微分法・積分法	それぞれの単元	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 不定積分,			↓数学B	25		
7		での定義などを	定積分, 定積分と面積						
8		理解し、演習に							
9		つなげていく							
第2回考査									
9						↓数学C			
10									
11									
第3回考査									
12	演習問題	それぞれの単元	演習問題に取り組む				10		
1		での定義などを							
2	理解し、演習につなげていく								
第4回考査							1		
3							7		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			

	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問

科目	数学 B	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 B	副教材等		(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C					
学習の目標	数列、統計的な推測の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考		時数	
4 5 6						↓数学Ⅱ			
第1回考査									
6 7 8 9	数列	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式			↓数学 B		2 1	
第2回考査									
9 10 11 12	統計的な推測	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布			↓数学 C		1 9	

第3回考査					1
12 1 2		それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく			
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	数列、統計的な推測の考え における基本的な概念、原 理・法則などを体系的に理 解し基礎的な知識を身につ け、数学的に処理する仕方 や推論方法などの技能を身 に付けている。	当該分野において、事象を数学的に 考察し表現したり、思考の過程を振 り返り多面的・発展的に考えたりす ることなどを通して、数学的な見方 や考え方、表現・処理する技能を身 に付けている。	当該分野における考え方に関心を 持つとともに、数学のよさを認識 し、事象の考察に活用して数学的 な考え方に基づいた探究をしよう とする。		
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テ スト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問		

科目	数学 C	単 位 数	1	授業時間 [総時数]	5 5 分 [32 回]	学 年	2	学 科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 C	副教材等		(問題集) クリアー数学 II + B + C (参考書) チャート式 基礎からの数学 II + B + C					
学習の目標	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6						↓数学 II			
第1回考査									
6 7 8 9						↓数学 B			
第2回考査									

9	数列	それぞれの単元			
10	平面上のベクトル	での定義などを理解し、演習につなげていく	ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの内積	↓数学 C	1 5
11	空間のベクトル		位置ベクトル, ベクトルと図形		1 2
第3回考査					1
12	演習問題	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	演習問題に取り組む		3 2
1					
2					
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)		課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

令和6年度シラバス【数学ⅡBC】：理系

長野県伊那北高等学校

科目	数学Ⅱ	単位数	4	授業時間 [総時数]	55分 [128回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ 高等学校 数学Ⅲ	副教材等		(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C					
学習の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	図形と方程式	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく	点と直線, 円の方方程式, 円と直線, 軌跡と領域			↓数学Ⅱ	15		
5	三角関数		三角関数, 加法定理				18		
6	指数関数・対 数関数		指数の拡張, 指数関数, 対数関数, 常用対数				12		
第1回考査						1			
6	微分法・積分 法	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 不定積分,			↓数学B	25		
7			定積分, 定積分と面積						
8									
9									
第2回考査									
9						↓数学C			
10									
11									
第3回考査									
12	関数	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習に つなげていく	分数関数, 無理関数, 逆関数と合成関数			↓数学Ⅲ	10		
1									
2									
第4回考査						1			
3	極限		数列の極限, 無限等比数列, 無限級数				7		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方			当該分野における考え方に興味を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしよう			

	原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	とする。
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問

科目	数学 B	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 B	副教材等	(問題集) クリアー数学Ⅱ+B+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C						
学習の目標	数列、統計的な推測の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 5 6					↓数学Ⅱ				
第1回考査									
6 7 8 9	数列	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式		↓数学 B	2 1			
第2回考査									
9 10 11 12	統計的な推測	それぞれの単元での定義などを理解し、演習につなげていく	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布		↓数学 C	1 9			
第3回考査									
12 1		それぞれの単元での定義などを							

2		理解し、演習につなげていく		↓数学Ⅲ	
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	数列、統計的な推測の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。	当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。		当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)	課題レポート 定期考査、他テスト		提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

科目	数学 C	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	高等学校 数学 C	副教材等		(問題集) クリアー数学Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅲ+C					
学習の目標	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えについて理解させ、基本的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を出して、知識・技能の習得の助けとし、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6						↓数学Ⅱ			
第1回考査									
6 7 8 9						↓数学 B			
第2回考査									

9	数列	それぞれの単元	数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式	↓数学C	1 5
10	平面上のベクトル	での定義などを理解し、演習につなげていく	ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの内積		1 2
11	空間のベクトル		位置ベクトル, ベクトルと図形		
第3回考査					1
12	複素数平面	それぞれの単元	複素数平面, 複素数の極形式と乗法, 除法	↓数学III	1 4
1	式と曲線	での定義などを理解し、演習につなげていく	ド・モアブルの定理, 複素数と図形		2 1
2			2次曲線, 媒介変数表示と極座標		
第4回考査					
3					
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、複素数平面、式と曲線の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。		当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。	当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。	
評価方法	定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)		課題レポート 定期考査、他テスト	提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問	

令和6年度シラバス 理数科【理数数学Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	理数数学Ⅱ	単位数	6	授業時間 [総時数]	55分 [192回]	学年	2	学科	理数科
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ、B、C 高等学校 数学Ⅲ	副教材等	(問題集) 4STEP 数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C (参考書) チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C, Ⅲ+C						
学習の目標	「理数数学Ⅰ」の基礎の上に立ち、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばし、知識及び技能などを積極的に活用する力を身につける。								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、ウィークリーテストなどを行う。 ・定期テスト、ウィークリーテストを利用して、学習の自己評価を行わせる。 ・課題を通して、知識・技能の習得をはかり、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	図形と方程式	それぞれの単元	点と直線, 円の方程式, 円と直線, 軌跡と領域			数学Ⅱ	14		
5	三角関数	での定義などを	三角関数, 加法定理				17		
6	指数関数・対数関数	理解し、演習につなげていく	指数の拡張, 指数関数, 対数関数, 常用対数				10		
第1回考査							2		
6	微分法・積分法 数列	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習につなげていく	微分係数と導関数, 関数の値の変化, 不定積分, 定積分, 定積分と面積			数学B	24		
7			数列, 等差数列, 等比数列, Σ , 階差数列, 漸化式				17		
8									
9									
第2回考査							2		
9	統計的な推測	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習につなげていく	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値と分散, 二項分布, 正規分布			数学B	20		
10	平面上のベクトル		ベクトルの演算, ベクトルの成分, ベクトルの内積			数学C	14		
11	空間上のベクトル		位置ベクトル, ベクトルと図形			数学C	10		
第3回考査							2		
12	複素数平面 式と曲線 関数	それぞれの単元 での定義などを 理解し、演習につなげていく	複素数平面, 複素数の極形式と乗法, 除法 ド・モアブルの定理, 複素数と図形			数学C	13		
1			2次曲線, 媒介変数表示と極座標			数学Ⅲ	20		
2			分数関数, 無理関数, 逆関数と合成関数				20		
第4回考査							2		
3	極限		数列の極限, 無限等比数列, 無限級数				5		
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			

	<p>いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し基礎的な知識を身につけ、数学的に処理する仕方や推論方法などの技能を身に付けている。</p>	<p>当該分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方、表現・処理する技能を身に付けている。</p>	<p>当該分野における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいた探究をしようとする。</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期考査 ウィークリーテスト(小テスト)</p>	<p>課題レポート 定期考査、他テスト</p>	<p>提出物(プリント、ノート) 課題レポート・発言・質問</p>

3. 英語

令和6年度シラバス【英語コミュニケーションⅡ】

長野県伊那北高等学校

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	普通科	
使用教科書	New Rays English Communication II (いいずな書店)	副教材等	New Rays English Communication II Workbook Advanced (桐原書店)、 Focus on Listening Standard (エミル出版)他						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。 (2) やさしいレベルのものから順を追って大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。授業・家庭学習を通して自律した学習者を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	1 Words that Can Guide You in Life	切り拓く力 エッセイ	英語でインタビューをする	○	○	○	28		
5	2 Stationary	発想の力 説明文	リサーチとミニプレゼンを行う(Show and Tell)	○	○	○			
6	3 Salt:More than Just a Seasoning	歴史の力 説明文	塩について調べスピーチする	○	○	○			
第1回 定期考査				○	○		1		
6	4 The Story of Holly Butcher	伝える力 エッセイ	英語で手紙を書く	○	○	○	28		
~	5 Welcome to Costa Rica	多様性の力 対話文(講義)	エコツーリズムを企画する	○	○	○			
9	6 The World Is Not So Simple	データの力 プレゼンテーション	講義を聞いて、要点をまとめる	○	○	○			
第2回 定期考査				○	○		1		
9	The Empty Pot	Audio Focused Reading	聴き読みしながら物語を理解する	○	○	○	32		
~	7 The Psychology of Everyday Experiences	理論の力 説明文	スキットを作成し、発表する	○	○	○			
11	8 An Ainu Girl Named Yukie	意志の力 説明文	物語を英訳し、朗読する	○	○	○			
第3回 定期考査				○	○		1		
12	Debate project	ディベート 批判的思考力	段階的にディベートの手法を学び、実践する	○	○	○	32		
~	9 The Miracle of the Abu Simbel Temples	協働の力 説明文	世界遺産について発表する	○	○	○			
2	10 Physics Goes a Long Way	ことばの力 説明文(スピーチ)	プレゼンのための原稿作成をする	○	○				
第4回 定期考査				○	○		1		
3	The Bracelet	物語	物語を味わう	○	○		4		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている		授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方 法	考査(定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等)	授業中に課された課題・プロジェクト、考査(英作文)、パフォーマンステスト		ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み					

令和6年度シラバス【論理表現Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	論理表現Ⅱ	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)	副教材等	SKYWARD総合英語 (桐原書店) FACTBOOK II Workbook Mastery (桐原書店) 他					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として英語を学びながら世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5つの領域の活動を取り入れ、特に英語を話したり、書いたりする発信力を高めることを目指す。 (2) 基本的な語彙や表現の定着を図り、身近な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	Thinking Logically4~5		文型の拡張・説明語句の 拡張	○	○	○	12	
~	1 How should we lead a healthy lifestyle?	健康・ライフスタイル	説明する・相手の発言を やわらかく否定する	○	○	○		
6	2 Steps we can take to Zero Hunger	貧困・飢餓		○	○	○		
第1回考査				○	○		1	
6	3 What are good and bad sides of urbanization?	都市化の問題	修飾による説明	○	○	○	12	
~	4 Is your city sustainable enough?	持続可能な都市	発言の意図や感情とともに 情報を伝える	○	○	○		
9	5 Culture or the environment?	環境保護と文化		○	○	○		
第2回考査				○	○		1	
9	6 How to live a plastic-free life?	プラスチックごみ問題	受動態・助動詞・比較・ 仮定法	○	○	○	16	
~	7 Helping others at home and abroad	NGO活動と共生	相手から話を聞きだす・ 言いにくいことを切り出 す	○	○	○		
11	8 Challenges to equality	ジェンダー平等		○	○	○		
第3回考査				○	○		1	
12	9 Produce locally, consume locally	地産地消	強調・倒置・語法など ディベート	○	○	○	16	
~	10 Sharing as one way to create new value	シェアリングエコノミー		○	○	○		
第4回考査				○	○		1	
3			1年間のまとめ	○	○	○	4	
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）	授業中に課された課題考査（英作文） パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出、リフレクションシート					

令和6年度シラバス【英語総合】

長野県伊那北高等学校

科目	英語総合	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	CNN Workbook Extended Course (朝日出版社)	副教材等	Oxford Reading Tree(Oxford University Press) 他						
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。特に英語ニュースを通して、受信→思考→発信の流れで4技能を身につける。 (2) やさしいレベルのものを大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。								
月	指導目標	学習内容	備考	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	易しいレベルの洋書を大量に読むことを通して、英語を英語のまま理解できる感覚を培う。 英語のニュースを聴いて英語の音に慣れる。	英語多読・CNN News1~5 ポスター制作		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	14		
第1回 定期考査				○	○		1		
6 ~ 9	易しいレベルの洋書を大量に読むことを通して、英語を英語のまま理解できる感覚を培う。 自分で選んだトピックについて調べてまとめて発表する。	英語多読・CNN News6~12 プレゼンテーション		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第2回 定期考査				○	○		1		
9 ~ 11	多読のレベルを上げて、英語を英語のまま理解できる感覚を培う。 ディベートを段階的に取り入れ、批判的思考力や発信力をつける。	英語多読・CNN News13~16 ディベート		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第3回 定期考査				○	○		1		
12 ~ 2	多読のレベルを上げて、英語を英語のまま理解できる感覚を培う。 自分で選んだテーマについて、自分の考えをまとめて発表する。	英語多読・CNN News17~20 プレゼンテーション		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	15		
第4回 定期考査				○	○		1		
3		まとめ		○	○		1		
評価 規 準	知識・技能	英語のリーディング・リスニングをするために必要な語彙、英文法や構文の知識を身につけている。	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
		英語のリーディング・リスニングをするために必要な語彙、英文法や構文の知識を身につけている。	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている	授業において目標を持ち、主体的に向上心を持って取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方法	考査（定期考査、小テスト等）	授業中に課されたプロジェクト、ディベート・考査（英作文）	ペアワーク・グループワークの取り組み、プロジェクトへの取り組み、振り返りシート						

科目	学際英語αⅡ	単位数	4	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	普通科
使用教科書	New Rays English Communication II (いづな書店)	副教材等	New Rays English Communication II Workbook Advanced、 Focus on Listening Standard (エミル出版)他					
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として、仲間と切磋琢磨しながら英語を学ぶことで自らの世界を広げ、バランスの取れた英語の運用能力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 総合的な英語力の向上を目指し、5つの領域(Listening, Reading, Interaction, Presentation, Writing)をバランスよく取り入れた活動に取り組む。教科の枠組みを超え、深く探究する。 (2) やさしいレベルのものから順を追って大量にインプットし、英語を英語のまま理解できるための素地を作るとともに読解力の向上を目指す。授業・家庭学習を通して自律した学習者を目指す。 (3) 授業ではペアワーク等を積極的に取り入れ、考えながら主体的・協働的に学ぶようにする。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4	1 Words that Can Guide You in Life	切り拓く力 エッセイ	英語でインタビューをする	○	○	○	28	
5	2 Stationary	発想の力 説明文	リサーチとミニプレゼンを行う(Show and Tell)	○	○	○		
6	3 Salt:More than Just a Seasoning	歴史の力 説明文	塩について調べスピーチする	○	○	○		
第1回 定期考査				○	○		1	
6	4 The Story of Holly Butcher	伝える力 エッセイ	英語で手紙を書く	○	○	○	28	
~	5 Welcome to Costa Rica	多様性の力 対話文(講義)	エコツーリズムを企画する	○	○	○		
9	6 The World Is Not So Simple	データの力 プレゼンテーション	講義を聞いて、要点をまとめる	○	○	○		
第2回 定期考査				○	○		1	
9	The Empty Pot	Audio Focused Reading	聴き読みしながら物語を理解する	○	○	○	32	
~	7 The Psychology of Everyday Experiences	理論の力 説明文	スキットを作成し、発表する	○	○	○		
11	8 An Ainu Girl Named Yukie	意志の力 説明文	物語を英訳し、朗読する	○	○	○		
第3回 定期考査				○	○		1	
12	Debate project	ディベート 批判的思考力	段階的にディベートの手法を学び、実践する	○	○	○	32	
~	9 The Miracle of the Abu Simbel Temples	協働の力 説明文	世界遺産について発表する	○	○	○		
2	10 Physics Goes a Long Way	ことばの力 説明文(スピーチ)	プレゼンのための原稿作成をする	○	○	○		
第4回 定期考査				○	○		1	
3	The Bracelet	物語	物語を味わう	○	○		4	
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている	情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある/書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝えるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる/仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方 法	考査(定期考査、課題テスト、整理テスト、小テスト等)	授業中に課された課題・プロジェクト、考査(英作文)、パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出や取り組み					

科目	学際英語βⅡ		単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)		副教材等		総合英語FACTBOOK (桐原書店) FACTBOOK II Workbook Mastery (桐原書店) 他				
学習の目標	国際化が進む社会に生きる地球市民として仲間と切磋琢磨しながら英語を学び、世界を広げ、特に話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くことの領域の力を高めることで自らの未来を切り拓いていくことを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 5領域の活動を取り入れ、掘り下げた内容を話したり書いたりする英語での発信力を高めることを目指す。 (2) 基本的な語彙や表現の定着を図り、身近な話題について明確に伝わる表現ができるようにする。 (3) ペアワーク等を積極的に取り入れ、協働的に学び、お互いに高め合えるようにする。								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	Thinking Logically4~5		文型の拡張・説明語句の 拡張	○	○	○	12		
~	1 How should we lead a healthy lifestyle?	健康・ライフスタイル	説明する・相手の発言を	○	○	○			
6	2 Steps we can take to Zero Hunger	貧困・飢餓	やわらかく否定する	○	○	○			
第1回考査				○	○		1		
6	3 What are good and bad sides of urbanization?	都市化の問題	修飾による説明	○	○	○	12		
~	4 Is your city sustainable enough?	持続可能な都市	発言の意図や感情とともに に情報を伝える	○	○	○			
9	5 Culture or the environment?	環境保護と文化		○	○	○			
第2回考査				○	○		1		
9	6 How to live a plastic-free life?	プラスチックごみ問題	受動態・助動詞・比較・ 仮定法	○	○	○	16		
~	7 Helping others at home and abroad	NGO活動と共生	相手から話を聞きだす・ 言いにくいことを切り出 す	○	○	○			
11	8 Challenges to equality	ジェンダー平等		○	○	○			
第3回考査				○	○		1		
12	9 Produce locally, consume locally	地産地消	強調・倒置・語法など ディベート	○	○	○	16		
~	10 Sharing as one way to create new value	シェアリングエコノミー		○	○	○			
第4回考査				○	○		1		
3			1年間のまとめ	○	○	○	4		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基本的な文章構成を理解しているとともに、文章や会話の内容を理解するための語彙、英文法や構文の知識を身につけている		情報・事実・意見を読み取り、理解できる思考力・判断力がある／書かれた内容や自分の考えを自分の言葉でまとめ、伝わるように表現する力をつけている	授業や家庭学習において目標を持ち、主体的に取り組んでいる／仲間と協働しながら積極的に言語活動に取り組んでいる					
評価 方 法	考査（定期考査、課題テスト、小テスト等）		授業中に課された課題考査（英作文） パフォーマンステスト	ペアワーク・グループワークの取り組み、課題提出、リフレクションシート					

4. 地歴公民

令和6年度シラバス【 公共 】

長野県伊那北高等学校

科目	公共	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学 年	2	学 科	普通科 理数科
使用教科書	公共 (東京書籍)	副教材等	『公共 ワークノート』(東京書籍) 『クローズアップ 公共 2024』(第一学習社)						
学習の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな思想家の思索に触れながら、学ぶことや働くことの意義を深く問い、他者とともにある人間としてのあり方を考えなおす。 ・現代社会を基礎づける民主主義や資本主義の歴史的変遷を把握したうえで、自らが責任ある市民であり、持続可能な国際社会・地域社会をつくる主体であるという自覚をもつ。 ・統計資料や図表を参考にしながら、現代の国際社会・地域社会にある課題を発見し、それを解決するための納得解を他者とともに探究しようとする姿勢を身につける。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6	1 「公共」 のとびら	○以下に列挙する問いについて思索を深める。 ・「自己形成」とはどのような過程か。 ・人間は「社会的な存在」なのか。 ・道徳的によい行為とはどういった行為なのか。 ・「国家」とはどのような役割を持っているか。 ・民主主義と立憲主義にはどのような違いがあるか。 ・「人権」とはなにか。	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己形成の課題 ・自己形成と社会への参画 ・個人として尊重される人間 ・社会的な存在としての人間 ・伝統・文化のなかの人間 ・功利主義と幸福の原理 ・義務論と公正の原理 ・公共的な空間における協働とは ・民主主義とは ・立憲主義とは ・人権保障の意義と展開 			左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13		
第1回考査							1		
6 7 8 9	2-1 民主政治 と私たち 2-2 法の働き と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義は実現できるのか。 ・戦後日本の行政改革は何をめざしているのか。 ・日本の政治を動かしているのは誰か。 ・「法」とはなにか。 ・私たちがかわす「契約」とはどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの民主政治 ・地方自治のしくみと役割 ・国会のしくみと役割 ・内閣のしくみと役割 ・政治参加と選挙 ・政党と利益集団 ・メディアと世論 ・法と社会規範の役割 			左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13		

			<ul style="list-style-type: none"> ・法の成立と適用 ・市民生活と法 ・多様な契約 ・消費者の権利と責任 		
第2回考査					1
9 10 11	2-2 法の働き と私たち 2-3 経済社会 で生きる 私たち 2-4 私たちの 職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判所は何をしているのだろうか。 ・「経済活動」とはどのような活動か。 ・「市場経済」とはどのようなシステムか。 ・「豊かさ」はどのようにはかることができるか。 ・金融機関は何を行なっているのだろうか。 ・日本は「小さな政府」をめざすべきか。「大きな政府」をめざすべきか。 ・働くことは苦しいものなのだろうか。 ・「ブラック」からどのように自分たちを守るべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司法のしくみと役割 ・刑事司法と司法参加の意義 ・私たちと経済 ・市場経済のしくみ ・国民所得と経済成長 ・金融のしくみと働き ・中央銀行の役割と金融環境の変化 ・財政の働き ・財政の課題 ・社会保障の考え方 ・社会保障の課題とこれから ・働くということ ・多様な職業選択 ・労働者の権利 ・現代の雇用・労働問題 	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	17
第3回考査					1
12 1 2	2-5 国際社会 のなかで 生きる私 たち	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会にはどのようなルールが必要か。 ・戦後の日本は国際平和に貢献してきたのか。 ・世界から紛争をなくすことはできるか。 ・グローバル化した世界経済にはどのような課題があるか。 ・世界から貧困をなくすことはできるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の成り立ち ・国際連合の役割 ・日本の平和主義と冷戦 ・冷戦後の世界と日本 ・現代の紛争とその影響 ・平和な国際社会に向けて ・貿易のしくみ ・国際金融のしくみと動向 ・グローバル化と今日の国際社会 ・国際経済の諸課題 	左はあくまで予定であり、時折の社会状況に応じて変更することもありうる。	13
第4回考査					1
3		<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な社会」をどうつくりたいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・倫理、政治・経済にむけて 		4
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		

	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力が身についている。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が身につけており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚が深まっている。
評価方法	定期考査における知識の定着度を問う問題の正答率などを参考に、総合的に判断する。	定期考査における思考力や表現力を問う問題の正答率やレポート等の提出物などを参考に、総合的に判断する。	定期考査の点数や提出物、授業におけるグループワークの取り組みなどを参考に、総合的に判断する。

○ 学習のポイント

- ・個別の知識を蓄えるだけでなく、それらを結びつけ、「地球的課題（グローバルイシュー）には、だれが／どのように向きあうべきか」「わたしたちはどのような社会をめざし、それをどのようにつくっていくことができるか」「わたしたちの生活は、何によって成りたっているか、何に支えられているか」「わたし／わたしたちとはなにものであり、なにものであるべきか」などの大きく、本質的な問いに対する答えを模索し続けてほしい。
- ・中学校公民科の学習内容と重複する部分が多いので、授業に真摯に参加し、効率よく学習してほしい。
- ・授業の進捗状況に関わらず、教科書・副教材を利用して、自発的に学習してほしい。

令和6年度シラバス【 日本史探求 】

長野県伊那北高等学校

科目	日本史探求	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	詳説 日本史 (山川出版社)	副教材等	新詳日本史(浜島書店) 新日本史要点ノート [応用編] (啓隆社) など						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み・ 指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歩みを探り、周辺の国々や各地域の歴史や諸外国との関係について理解する。 ・現在の日本の課題を見出し、歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版、資料を活用し歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容				備考	時数	
4 5	第1章 日本のあけぼの	日本列島の人類は、旧石器・縄文・弥生の各時代へと移行していく中で、変化する自然環境に適応しつつ、定住生活や農耕生活を繰り広げた。その過程を理解する。	1 文化のあけぼの 2 農協社会の成立					12	
第1回考査								1	
6 7 8 9	第2章 古墳とヤマト政 権 第3章 律令国家の形成	中央集権国家を目指すヤマト政権と古墳の関係性や、大和政権の対外関係について理解する。 律令国家が形成され、支配を浸透させていく過程を理解する。またこの時期に形成された日本的な政治の在り方や中国との交流の在り方について理解する。	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令文化の時代 4 律令国家の変容					12	

第2回考査					1
9 10 11	第4章 貴族政治の展開	摂関政治や国風文化の成立の背景を理解する。また地方政治の変容について理解する。	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士		1 6
	第5章 院政と武士の躍進	院政の成立過程について理解する。また武士の台頭のきっかけについて理解する。	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権		
第3回考査					1
12 1 2	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立や全国政権に成長する過程を理解する。また武士の勢力拡大が、政治や社会にどのような影響を与えたのか理解する。	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化		1 2
	第7章 武家社会の成長	室町幕府の成立や有力守護の勢力拡大について、その背景・要因を理解する。武士の家族制度の変容について理解する。 この時期に一揆や下剋上の発生した要因や背景について理解する。	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場		
第4回考査					1
3	第8章 近世の幕開け	織田信長・豊臣秀吉によって全国が統一される過程を理解する。 また日本は、世界やアジ	1 織豊政権 2 桃山文化		4

		アとの活発な交流や、国内政治の変化によって、どのような影響を受け、どのように変化したのか、理解する。		
評価規準	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査	

○学習のポイント

とにかく教科書を読み込むことが大切です。教科書ベースの学習を心がけて下さい。

授業は、歴史の流れを重視した展開となります。歴史を大枠で捉え、時代観・歴史観を養えるように進めていきます。各時代の出来事、事件、政策、争い、文化、生活などは「なぜ」起こったのか？という視点で、授業に参加し、教科書を読んでほしい。時代の流れという「幹」＝「土台」を作り、そこにたくさんの「枝」＝「知識」をつけていくイメージを持ってください。そのためのグループワーク、論述問題・共通テスト過去問へのチャレンジも授業内で行っていきます。

また過去の先輩たちで、日本史の力を伸ばした人は、とにかく質問をしてくれました。わからないところや、疑問があれば、社会科研究室に足を運んでください。

令和6年度シラバス【世界史探求】

長野県伊那北高等学校

科目	世界史探求	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	詳説 世界史 (山川出版)	副教材等	グローバルワイド世界史図表(第一学習社) 新世界史要点ノート[応用編](啓隆社)など						
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地域独自の文化的枠組みの形成と変遷を理解する。 ・現在の世界の課題を見出し、歴史過程からその解決への手がかりを探る。 ・図版、資料を活用し歴史への理解を深める。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	指導目標	学習内容				備考	時数	
4 5 6	世界史へのまな ぎし 第1章 文明の成立と古 代文明の特質	農耕・牧畜の開始により、大河流域を中心に文明が栄えたことを理解する。 各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質を理解する。	地球環境から見る人類の歴史 日常生活から見る世界の歴史 1 文明の誕生 2 古代オリエント 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明					12	
第1回考査								1	
6 7 8 9	第2章 中央ユーラシア と東アジア世界 第3章 東アジア世界と 東南アジア世界 の展開	紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には遊牧と農耕の2つの世界が並び立ち、唐がこれらを統合した。その過程を理解する。 南アジアの宗教の広がりや東南アジアの社会形成を理解する。	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動揺と変容 4 東アジア文化圏の形成 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開					12	
第2回考査								1	
9 10 11	第4章 西アジアと地中 海周辺の国家形 成 第5章	西アジアと地中海周辺に現れた諸国家の特徴を理解する。 イスラーム教の成立は、西アジア・ヨーロッパの人々や社会にどの	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシャ人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展					16	

	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	ような影響を与えたか理解する。	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成		
第3回考査					1
12	第6章 1 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 2 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	イスラーム教は諸地域にどのように広がったかを理解する。 中世ヨーロッパの特徴と、その変遷を理解する。	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化		1 2
第4回考査					1
3	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	東アジアの諸国家はどのような性格を持ち、モンゴル帝国はどのような役割を果たしたか理解する。	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国		4
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
評価方法		小テスト 定期考査	定期考査	発言・質問 定期考査	

○ 学習のポイント

まずは単純な暗記をおろそかにしないこと。そして、その暗記項目を利用して歴史展開を説明できるようにすること。歴史の必然性を捉えながら既知情報から仮説を立てて、新たな歴史展開を想起できるように考えておくこと。常に基本事項の確認を行っておくこと。

科目	地理探究		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	新詳地理探究, 帝国書院 詳解現代地図最新版, 二宮書店		副教材等		新編地誌資料, 白地図ワーク&読図演習, とうほう データブックオブザワールド 2023, 二宮書店					
学習の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し, 各地域の特性や歴史的背景を地誌的に捉え, 地理的な見方・考え方を養う。また, 国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。									
具体的な取り組み・指導上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学の概念や原理・法則、現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に探究する。 ・地球的な課題を見だし, 系統地理的な考察からその過程や結果を適切に文章や地図・図表に表現する。 ・定期考査を行い, それまでの学習の取り組みや理解度の自己評価を行う。 									
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数			
4 5 6	農業	農林水産業について自然条件・社会条件に基づき農業地域を理解する。	農牧業, 自給的農牧業, モンスーンアジアの農業, 商業的農牧業, 企業的農牧業, プランテーション農業, 食糧問題, 林業, 水産業, 日本の農林水産業			食料不足など地球的課題について探究的な学習も交える。	15			
第1回考査										1
7 8 9	鉱産資源	エネルギー鉱産資源について分布や利用について理解し, 今後起こりうる資源・エネルギー問題を主体的に学ぶ。	エネルギー資源, 電力, 鉱産資源, 資源・エネルギー問題			統計資料から有用な情報を把握して地域や産物の特色や課題を読み取る。	15			
第2回考査										1
9 10 11	商業 交通通信 貿易 人口	経済の発展を支える諸活動について理解し, 世界の動向について理解する。	産業構造の変遷, 交通の発達, 日米貿易, 自由貿易・保護貿易, WTO・EPA, 自然増加・社会増加			人口減少問題と多様化するライフスタイルの関係を考察する。	15			
第3回考査										1
12 1 2 3	集落 衣食住 言語・宗教 人種・民族	地球上で生活する人々の多様な生活を学ぶ。	村落・都市, 都市問題, 再開発, 衣食住, 言語・宗教, 多言語国家, 人種差別, 民族紛争, 領土問題			人種差別, 宗教迫害の歴史から共存の未来について考える。	15			
第4回考査										1
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	自然環境, 産業, 地球的な諸課題について理解を深め, 人間生活との相関を学ぶ		人間生活との関わりを多面的, 多角的に考察し, 諸課題を適切にまとめ, 表現できる。			地図や各種統計資料の読み取りから諸現象を考察できる能力を身につける。				
評価方法	4回の考査などで基礎的・応用的な問題を課し, 知識・技能の定着と発展性を見定める。		定期考査時に記述問題を課し, 思考・判断・表現の定着と発展性を評価する。			グループ学習, 質疑応答, 事後の質問などで主体的に取り組む態度を評価する。				

○ 学習のポイント

暗記だけでなくなぜその現象が起こるのかを考察する姿勢で科目に臨むこと。地理には俯瞰的な視点でかつ多角的に物事をとらえ考察する力が必要となるので、様々な事柄に興味・関心を持ち、日常生活の中の疑問を大切にしていきたい。教科書・地図帳・資料集・統計資料などを活用することを厭わない姿勢を持ち、問題演習に取り組むこと。

5. 理科

令和6年度シラバス【化学基礎】

長野県伊那北高等学校

科目	化学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館)	副教材等	エッセンスノート化学基礎(啓林館) スクエア最新図説化学					
学習の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との連携を図りながら、化学的な現象について理解する。 化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
	第1部 物質の構成							
	1 物質の構成	1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	○	○		2	
	2 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置 2 イオン 3 元素の周期表	原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	○	○		2	
				○	○		3	
				○	○		1	
					○	○	1	
	第1回考査							
	3 化学結合	1 イオン結合 2 共有結合 3 金属結合 4 物質の分類と融点	粒子の結合を電子配置と関連付けて理解する。	○	○		4	
				○	○		3	
				○	○		2	
				○	○		1	
	第2部 物質の変化							
	1 物質量と	1 原子量・分子量・式量		○	○		3	
	第2回考査							
	化学反応式	2 物質量	物質量と粒子数、質量、気体体積との関係について理解する。	○	○		6	
		3 化学反応式と化学変化の量的関係 (実験) 量的関係	化学反応の量的関係を見いだして理解する。	○	○		6	
					○	○	1	
	2 酸と塩基	1 酸と塩基 2 水の電離とpH 3 酸・塩基の中和と塩 (実験) 中和滴定	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。 酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解する。	○	○		3	
				○	○		4	
				○	○		4	
					○	○	1	
	第3回考査							
	3 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の応用	酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。 酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。	○	○		3	
				○	○		3	
				○	○		4	
				○	○		2	
	第4回考査							
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
評価 規 準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査					

科目	化学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館)	副教材等	リードα化学基礎+化学(数研出版) スクエア最新図説化学 など						
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	第1部 物質の構成 1 物質の構成	1 純物質と混合物	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
		2 物質とその成分		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
		3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
	2 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置	原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
		2 イオン		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		3 元素の周期表		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
	3 化学結合	1 イオン結合	粒子の結合を電子配置と関連付けて理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4		
		2 共有結合		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		3 金属結合		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
		4 物質の分類と融点		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
	第2部 物質の変化 1 物質量と 化学反応式	1 原子量・分子量・式量	物質量と粒子数, 質量, 気体体積との関係について理解する。 化学反応の量的関係を見いだして理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		2 物質量		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6		
		3 化学反応式と化学変化の量的関係		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6		
第1回考査									
7 8 9	2 酸と塩基	(実験) 量的関係	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。 酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
		1 酸と塩基		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		2 水の電離とpH		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4		
	3 酸化還元反応	3 酸・塩基の中和と塩 (実験) 中和滴定	酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。 酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1		
		1 酸化と還元		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		2 酸化剤と還元剤		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3		
		3 金属の酸化還元反応		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4		
		4 酸化還元反応の応用		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2		
第2回考査									
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。						
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査						

科目	化学	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	化学（数研出版）	副教材等	リードα化学基礎+化学（数研出版） スクエア最新図説化学 など						
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探求する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
9	第2編 物質の変化 2章 電池と 電気分解	1 電池 2 電気分解	酸化還元反応及び電池電気分解の基本的な概念や法則が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
第2回考査									
10 11	第1編 物質の状態 1章 固体の構造 2章 物質の 状態変化 3章 気体 4章 溶液	(実験) 電池と電気分解 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 (実験) 分子量の測定 3 混合気体の圧力 4 実在気体 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液 (実験) コロイド	化学基礎の学習内容をもとに、物質が粒子から構成されていることを確認する。 物質の三態、およびエネルギーと粒子の間でなりたつ法則を理解できる。 気体粒子の挙動がイメージできるようにし、周囲の状態との間で成り立つ法則を理解できる。 溶液中の溶質粒子の種類と挙動がイメージできるようにし、溶媒との関係の中で成り立つ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	6		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	8		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4		
				第3回考査					
12	エネルギー 3章 化学反応の 速さとしくみ	2 ヘスの法則 3 化学反応と光 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応の仕組み	化学変化の中で出入りする熱や光をエネルギーの観点から考え、未知の反応の熱量が計算によって求められることを理解する。 化学反応の速さの違いを理解し、その速さを表し方が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3		
1	4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	可逆反応には平衡状態が存在し、その状態は平衡定数で表すことができることを理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	8		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	16		
2,3	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	化学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。					
				既知の化学変化から問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					
評価方法	実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査						

科目	理数化学	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [128回]	学年	2	理数科			
使用教科書	高等学校 化学基礎(啓林館) 化学 (数研出版)	副教材等		リードα化学基礎+化学(数研出版) スクエア最新図説化学 など							
学習の目標	化学や化学現象に関わり、科学的な見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、様々な化学現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学に関する知識を深める。 ・科学的に思考し判断するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 ・実験を通して、化学反応や身近にある化学変化に主体的に関わり探究する力を養う。 ・定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 										
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数				
4	第1部 物質の構成 1 物質の構成	1 純物質と混合物	世の中の物質は元素からなり、それがどのようにして身の回りの物質を構成しているかを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2				
		2 物質とその成分		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2				
		3 粒子の熱運動と物質の三態 (実験) 硫黄の同素体		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1				
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1			
	2 物質の構成粒子	1 原子の構造と電子配置		原子の構造及び電子配置と原子の化学的性質及び周期律の関係を理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
		2 イオン			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3			
		3 元素の周期表			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1			
						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		1		
	5 3 化学結合	1 イオン結合			粒子の結合を電子配置と関連付けて理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4		
		2 共有結合				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3		
3 金属結合		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				2				
4 物質の分類と融点		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				1				
6 第2部 物質の変化 1 物質と 化学反応式	1 原子量・分子量・式量	物質と粒子数、質量、気体体積との関係について理解する。	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		3			
	2 物質質量		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		6			
	3 化学反応式と化学変化の量的関係		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			6				
				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		6			
第1回考査											
7 2 酸と塩基 8 3 酸化還元反応 9	2 酸と塩基		(実験) 量的関係	酸と塩基の定義とその測定法について学び、理解する。 酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解する。 酸化還元反応の定義について学び、その反応の仕組みや反応式の書き方を理解する。 酸化還元反応は、身近な多くの化学変化との関連があることを理解する。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1		
			1 酸と塩基		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3			
			2 水の電離とpH		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4			
			3 酸・塩基の中和と塩 (実験) 中和滴定		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4			
	3 酸化還元反応		1 酸化と還元		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3			
		2 酸化剤と還元剤	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		3				
		3 金属の酸化還元反応	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		4				
		4 酸化還元反応の応用	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		2				
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2			

	第2編 物質の変化 2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解	酸化還元反応及び電池電気分解の基本的な概念や法則が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2
第2回考査							
	第1編 物質の状態 1章 固体の構造	(実験) 電池と電気分解 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	化学基礎の学習内容をもとに、物質が粒子から構成されていることを確認する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
10	2章 物質の状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	物質の三態、およびエネルギーと粒子の間でなりたつ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		6
	3章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式 (実験) 分子量の測定	気体粒子の挙動がイメージできるようにし、周囲の状態との間で成り立つ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		5
	4章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液 (実験) コロイド	溶液中の溶質粒子の種類と挙動がイメージできるようにし、溶媒との関係の中で成り立つ法則を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
11					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
	第2編 物質の変化 1章 化学反応と熱	1 化学反応と熱		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		8
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4
第3回考査							
12	エネルギー	2 ヘスの法則 3 化学反応と光	化学変化の中で出入りする熱や光をエネルギーの観点から考え、未知の反応の熱量が計算によって求められることを理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		4
	3章 化学反応の速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応の仕組み	化学反応の速さの違いを理解し、その速さを表し方が理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		3
1	4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	可逆反応には平衡状態が存在し、その状態は平衡定数で表すことができることを理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		8
2,3				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		16
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
評価規準	化学現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	既知の化学変化から問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	化学変化に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価方法	実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査				

科目	地学基礎	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	地学基礎 東京書籍	副教材等	ベストフィット 地学基礎 実教出版						
学習の目標	地学に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との連携を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解する。 科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に着ける。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行わせる。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
	1編 私たちの大地	<ul style="list-style-type: none"> 地球の概観 地球の内部構造 プレートテクトニクス 地震 火山 災害とハザードマップ 固体地球まとめ <第1回考査>	地球の構造、活動について身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
	2編 私たちの空と海	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏 水と気象 太陽放射と地球放射 大気の大循環 海水の循環 日本の天気 地球環境と人間生活 大気と海洋まとめ <第2回考査>	大気と海洋の構造、運動について身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
3編 私たちの宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系 太陽 恒星 銀河 宇宙の構造 宇宙まとめ <第3回考査>	宇宙の姿と時間的な変化について身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
4編 私たちの地球の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 地層と化石 地球史 これからの地球環境 地球史まとめ <第4回考査>	地層や地球史について身につける。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
評価 規 準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。						
評価 方 法	小テスト 定期考査	小テスト 定期考査	発言・質問 定期考査						

科目	物理	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	物理 (数研出版)	副教材等	フォローアップドリル物理 (数研出版) リードα物理基礎+物理 (数研出版)					
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。							
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数	
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2	第1編 力と運動 第2章 剛体	1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようにする。	○	○		2	
	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積		○	○		2	
		2 運動量保存則 (実験含む)		○	○	○	2	
		3 反発係数		○	○		2	
	第4章 円運動と万有引力	1 等速円運動 (実験含む)		○	○	○	3	
		2 慣性力		○	○		2	
	第1回定期考査				○	○		1
	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	3 単振動 (実験含む)		○	○	○	4	
		4 万有引力		○	○		3	
	第2回定期考査				○	○		1
	第3編 波の伝わり方 第1章 波の性質	3 気体の状態変化		○	○		4	
		1 波と媒質の運動		○	○		2	
	第2章 音の伝わり方	2 正弦波の式		○	○		2	
		3 波の伝わり方		○	○		2	
1 音の伝わり方		○	○		2			
第3回定期考査			○	○		1		
第3章 光	2 音のドップラー効果	○	○		4			
	1 光の性質	○	○		2			
	2 レンズと鏡 (実験含む)	○	○	○	3			
第4編 電気と磁気 第1章 電場	3 光の干渉と回折	○	○	○	4			
	1 静電気力	○	○		3			
	2 電場	○	○		2			
第4回定期考査			○	○	○	2		
第4回定期考査						1		
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査					

科目	理数物理	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	理数科			
使用教科書	物理 (数研出版)	副教材等		フォローアップドリル物理 (数研出版) リードα物理基礎+物理 (数研出版)							
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。										
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数				
4 5 6 7 8 9 10 11 12	第1編 力と運動 第2章 剛体	1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようにする。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2				
	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則 (実験含む) 3 反発係数		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2				
	第4章 円運動と万有引力	1 等速円運動 (実験含む) 2 慣性力		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3				
	第1回定期考査			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1				
				3 単振動 (実験含む) 4 万有引力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4			
					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3			
	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	1 気体の法則 (実験含む) 2 気体分子の運動		熱に関する現象を観察、実験などを通して探究し、熱に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3			
	第2回定期考査				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
					3 気体の状態変化	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4		
	第3編 波の伝わり方 第1章 波の性質	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 3 波の伝わり方			水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2		
	第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2			
	第3回定期考査			<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1			
第3章 光	1 光の性質 2 レンズと鏡 (実験含む) 3 光の干渉と回折	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		2					
1 2	第4編 電気と磁気 第1章 電場	(実験含む) 1 静電気力 2 電場 3 電位 (実験含む)	電場・電位などについて観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3				
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2				
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	2				
	第4回定期考査			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1				
評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度								
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。								
評価 方法	小テスト 実験レポート 定期考査	実験レポート 定期考査	発言・質問 実験レポート 定期考査								

令和6年度シラバス【生物】

長野県伊那北高等学校

科目	生物	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 3rd Edition (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探究する力を養う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	第1章 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の進化 有性生殖と遺伝的多様性 進化の仕組み 	進化の仕組みを理解し、マクロな視点から生物を俯瞰することができるようになる。		○		13		
第1回考査				○	○	○	1		
6 7 8 9	第2章 生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統 生命と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統分類を理解する。 タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、すべての生命現象との関連を見出すことができるようになる。 	○			10		
第2回考査				○	○	○	1		
9 10 11	第3章 遺伝情報の発現と発生	<ul style="list-style-type: none"> 代謝 遺伝現象と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 生物の様々な形質の出発点がDNAの塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。 	○	○		8		
第3回考査				○	○	○	1		
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> 発生と遺伝子の発現 バイオテクノロジー 	<ul style="list-style-type: none"> 発生の過程における分化を、遺伝子発現の調節やたんぱく質の機能と関連付けて理解する。 DNAの塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解する。 		○		7 7		
第4回考査				○	○	○	1		
3	第1章～第3章	・年間のまとめ	・既習範囲を振り返って、知識の定着を確認する。	○			4		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査				

科目	理数生物	単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科	
使用教科書	高等学校 生物 (啓林館)	副教材等	センサー生物 3rd Edition (啓林館) WINSTEP生物 (ラーズ) スクエア最新図説生物						
学習の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見かた・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探求するために必要な資質能力を身に着ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 科学的に探求するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に着ける。 観察、実験などを行い、生物や生物現象に主体的に関わり探究する力を養う。 定期考査を利用して、学習の自己評価を行う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4 5 6	第1章 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> 生物の進化 有性生殖と遺伝的多様性 進化の仕組み 	進化の仕組みを理解し、マクロな視点から生物を俯瞰することができるようになる。		○		13		
第1回考査				○	○	○	1		
6 7 8 9	第2章 生命現象と物質	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統 生命と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の系統分類を理解する。 タンパク質が生命活動の中心であることを理解し、すべての生命現象との関連を見出すことができるようになる。 		○		10		
第2回考査				○	○	○	1		
9 10 11	第3章 遺伝情報の発現と発生	<ul style="list-style-type: none"> 代謝 遺伝現象と物質 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 生物の様々な形質の出発点がDNAの塩基配列にあることを理解し、全生命現象と関連付けることができるようになる。 		○	○	8		
第3回考査				○	○	○	1		
12 1 2		<ul style="list-style-type: none"> 発生と遺伝子の発現 バイオテクノロジー 	<ul style="list-style-type: none"> 発生の過程における分化を、遺伝子発現の調節やたんぱく質の機能と関連付けて理解する。 DNAの塩基配列以外にも生物の形質を決める要素があることを理解する。 			○	7 7		
第4回考査				○	○	○	1		
3	第1章～第3章	・年間のまとめ	・既習範囲を振り返って、知識の定着を確認する。	○			4		
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	生命現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に着けている。		既知の生命現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。		生命現象に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				
評価 方 法	小テスト 実験レポート 定期考査		実験レポート 定期考査		発言・質問 実験レポート 定期考査				

令和6年度シラバス【体育】

長野県伊那北高等学校

科目	体育	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	現代高等保健体育（体育理論）	副教材等	なし						
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を身に付ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・課題の解決に向けて思考・判断し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を身に付ける。 ・公正、協働、責任、参画などの態度を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ力を身に付ける。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4	体づくり 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全の確保とフェアなプレイ態度の育成 ・体力の向上を図ることのできる能力の育成と各種目技能の向上 ・個人技能の向上と集団における高度な動きの習得 ・課題解決におけるPDCAサイクルの習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・スポーツテスト 				3		
5	球技Ⅰ		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニスから1種目選択 				7		
6	ダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムのダンス 				4		
7	球技Ⅱ		<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニスから1種目選択 				7		
8	体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの学び方 				3		
9	球技Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、テニス、ソフトボール、ソフトバレーから1種目選択 				7		
10	陸上競技		<ul style="list-style-type: none"> ・競走（長距離走） 				6		
11	球技Ⅳ		<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、テニス、ソフトボール、ソフトバレーから1種目選択 				7		
12	球技Ⅴ		<ul style="list-style-type: none"> ・バスケット、バドミントン、卓球から1種目選択 				7		
1	球技Ⅵ	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケット、バドミントン、卓球から1種目選択 			7				
2	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの学び方 			3				
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> ①ゲーム中での技能発揮 ②種目における体力向上 ③技能の観察と分析力 ④空間を作る動き 		<ul style="list-style-type: none"> ①合理的な動きや運動成果、改善点を仲間に伝える力 ②自己に適した運動の関わり方と合意形成への貢献 		<ul style="list-style-type: none"> ①主体的に取り組む姿勢 ②健康安全への理解 ③相手を尊重する態度やフェアなプレイ態度、協調性 				

評価方法	各種目において、ゲームや技能テストを観察で評価する。	ゲームや技能テストでの観察。グループノートの提出がある種目は、内容でも評価。	出席を評価。観察でも評価する。
------	----------------------------	--	-----------------

令和6年度シラバス【保健】

長野県伊那北高等学校

科目	保健	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科 理数科
使用教科書	現代高等保健体育	副教材等	なし						
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身に付ける。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、その技能を身に付ける。 ・自他や社会の課題を発見し、課題の解決に向けて思考・判断し、他者に伝える能力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他や社会の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付ける。 								
月	単元名	指導目標	学習内容			備考	時数		
4 5 6 7 8 9	生涯を通じる健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じる健康について理解を深めることができるようにする。 ・課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合い、ノートに記述して筋道を立てて説明することができるようにする。 	①生涯の各段階における健康 <ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・妊娠、出産と健康 ・結婚生活と健康 ・加齢と健康 ②労働と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康 ・働く人の健康の保持増進 			生物と連携 情報と連携	9 9		
第2回考査							1		
10 11 12 1 2	健康を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える環境づくりについて理解を深めることができるようにする。 	①環境と健康 ②食品と健康 ③保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ④様々な保健活動や社会的対策 ⑤健康に関する環境づくりと社会参加				3 3 2 2 2		
第4回考査							1		
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			

	①現代社会と健康、安全な社会生活について理解を深めている ③応急手当を適切に行うことができる	①自他や社会の課題解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ワークシート等に記述したりして道筋を立てて説明できる	①主体的に取り組む姿勢 ②話し合いへの参加 ③主体的に自ら学び、課題解決のために調べたり、書き出したりしている。
評価方法	考査で評価。	考査で評価。観察及びワークやノートによる評価もある。	出席を評価。観察及びワークやノートによる評価もある。

授業を受ける上での留意点

<体育>

- 1 実技科目の特性上、出席を特に重視します。また、各種目3回以上の欠席は、評価に関わります。
- 2 病気、怪我等で長期間にわたって授業を欠く場合は、診断書等の提出が必要な場合があるので、教科担任に相談すること。見学については、教科担任に授業前に申し出て、指示を受けること。
- 3 意欲的に活動するだけでなく、準備運動や服装など健康安全についての理解も重視すること。
- 4 上下履きの区別、体育館シューズと上履きの区別、運動のできるジャージの着用等、ルールを守ること。
- 5 施設・用具を大切に使用し、使用後は必ず返却し、清掃等を行うこと。

体育系大学を志望する上での留意点

- 1 新体力テストの記録が必要となる大学もあります。
- 2 スポーツ活動（クラブ活動等）の記録や結果の証明が必要となる大学があります。賞状や新聞記事、公式データなど予め顧問の先生に相談しておいてください。プログラムを保管しておくのも良いです。
受験期に申し出てもすぐには準備できませんし、準備できない可能性もあります。
- 3 国公立大学は大学共通テストを重視、私立大学も二次試験に学科試験を課す大学が多くなっているため、早期から継続的に学習に取り組み、力をつけておく必要があります。
実技の練習は、大学共通テスト終了後から行います。可能性のある生徒は、予め体育科の職員に申し出ておいてください。ただし、基礎的な技能や体力等に関しては各自で継続して行っておいてください。
大学によって種目が異なるので、事前に内容を確認し、競技の特殊性も考え、必ず個人指導を受けて、対策をたててください。

7. 芸術

令和6年度シラバス【音楽Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	音楽Ⅱ		単位数	2	授業時間 [総時間]	55分 [64回]	学年	2	普通科
使用教科書	高校生の音楽2 (教育芸術社)		副教材等	愛唱歌集 (長野県高等学校音楽教育研究会)					
学習の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・表現分野（歌唱、器楽、創作）では、個々の段階に応じた題材を学習する。 ・西洋クラシック音楽史、日本の音楽、世界の諸民族の音楽について理解する。 ・楽曲について考えを深め、他者と批評し合う活動を取り入れる。 ・音楽系に進学を考えている生徒が履修している場合は、楽典やソルフェージュなども扱う。 								
月	単元名	学習内容	目標	知 技	思 判 表	主 体 的	時 数		
4	・日本歌曲 ・イタリア歌曲	・日本歌曲の特徴、歌唱法 ・イタリア語の発音、歌唱法	・言語による歌唱法の特徴や違いについて考え、歌唱で表現する。	○	○	○	15		
	・楽典①	・音価、拍子	・楽典の基礎的知識を習得する。	○	○	○			
5	・西洋音楽史①	・古代～ルネサンス期の西洋音楽	・様々な音楽が誕生した歴史的背景を知り、原始的な音楽の始まりについて考えることができる。	○	○	○			
6	・ドイツリート	・ドイツ語の発音、歌唱法	・言語による歌唱法の特徴や違いについて考え、歌唱で表現する。	○	○	○	15		
	・楽典②	・記譜法、調性	・読譜力を身につける。	○	○	○			
7	・西洋音楽史②	・バロック、古典派時代の西洋音楽	・対位法、ソナタ形式などについて理解する。	○	○	○			
8 9 10	・器楽（キーボード、ギター）	・ソロ、アンサンブルによる演奏	・楽器の基本的な奏法について学ぶ。	○	○	○	15		
	・西洋音楽史③	・ロマン派、近現代の音楽	・ロマン派から現代音楽に至るまでの音楽史について理解する。	○	○	○			
11 12	・様々な音楽	・日本、世界の諸民族の音楽 ・デジタルと音楽	西洋以外の音楽について理解を深める。	○	○	○	15		
	・創作	・作曲の体験（変奏曲をもとに）	・自分の持つイメージを音にして表現する方法について学ぶ。	○	○	○			
1 2	・ソルフェージュ	・聴音 ・新曲視唱 など	・履修者の実情に合わせて課題に取り組む。音楽大学等への進学予定者は入試問題に対応できる力をつける。	○	○	○	14		
	・個人実技	・弾き歌い、コードをもとにした伴奏付け、独唱、ピアノ独奏など	・履修者の実情に合わせて実技課題を設定し、練習に取り組む。	○	○	○			
評価 規 準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	①楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ②音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している		①音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ②音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	①音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。 ②自らの学習状況を把握し、それを踏まえ試行錯誤するなど、自ら学ぼうとしているか。					
評価 方 法	プリント課題 小テスト 実技テスト		小テスト 練習の取り組み 実技テスト	プリント課題 質問 練習の取り組み					

令和6年度シラバス【美術Ⅱ】

長野県伊那北高等学校

科目	美術Ⅱ	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科	
使用教科書	高校生の美術2 (日本文教出版)	副教材等	なし							
学習の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。									
・具体的な 取り組み ・指導上の 注意点	<p>○スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮する。</p> <p>○主題の生成から表現、完成に至る全過程を通し、自分の良さを発見し、喜びを味わい、自己実現を果たしていく。</p> <p>○造形要素の働きを理解する。</p> <p>○造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式を捉え理解する。</p> <p>○アイデアスケッチで構想を練り、考えを整理し、作品について批評し合う活動を取り入れる。</p>									
月	題材・内容	学習のねらい・内容	指導目標	時数						
4	1 文化祭ポスターの制作	・コンセプトが伝わりやすいポスターを描く。	・人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、表現する。	14						
5	2 色彩の学習	・色の仕組みや色彩心理効果を理解する。	・生活の中で効果的に使われている色彩の仕組みを理解する。							
6	ポスタリゼーション									
第1回考査										
6	3 生活の中のデザイン・陶芸	・用途、使い心地を配慮し、食器を作る。	・機能を考えて制作する。 ・素材の特性を理解する。	14						
7										
8										
9	第2回考査									
9	4 自塑像レリーフ	・自分の顔を立体的に表現する。	・彫塑に親しむ。	18						
10										
11										
第3回考査										
12	5 張り子のお面づくり	・自己を深く見つめ、感じ取ったことから主題を生成する。	・張り子の基本工程をアレンジし、自分の完成イメージに合わせた素材を集め、組み合わせて創造的に表現する。	18						
1										
2										

第4回考査			
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める。意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。	造形的なよさや美しさ、美術の働きについて考え、主題を生成し個性豊かに表現し、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育む。感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を育む。
評価方法	作品・レポート	作品・レポート・プレゼンテーション	制作に向かう姿勢・提出物・出席の状況

1. 学習を始めるまでに

美術の内容は鑑賞と造形表現に大別することができます。

鑑賞とは五感を通じて様々のことやものを捉える試みです。これは美術作品ばかりでなく、いろいろなことやものに触れたとき、考えたことや思うことです。それは、ちょっとした心地良さや違和感、発見で良いのです。自分の受け取ったなにかを言葉に置き換えて発信してみましょう。

造形表現とは自分の考えや感情など、内面に存在するものを何らかのかたちで(作品として)表し伝えることです。表現とは創造であり、創造とはなにかを生み出す行為です。受け身では何も生まれません。自らアクションを起こして自分の可能性を探究し、自らを解き放ち、理想のかたち目指して挑戦しましょう。

美術の学習では、鑑賞(インプット)と表現(アウトプット)と、そのやりとりの中で個性を確立し、自分が唯一無二の存在であることを実感してほしいのです。そして、人間や社会を豊かにするものの見方・考え方、発見や発明、感情や意思の伝達において、鑑賞と表現とそれらの交流が原動力になっていることを学んでほしいです。

2. 美術系大学進学希望者へ

『好きこそものの上手なれ』というように、とにかく造ることや描くことや観ることが好きであれば美大生になる素質は充分あります。アートやデザインは深く我々の生活に密接しています。生活そのものと言って過言ではないでしょう。現在、美術系大学の卒業生の多くが芸術家やデザイナーやクラフトマン、映像作家、建築家、職人、美術教師、学芸員などとして社会の中で活躍をしています。

美術系大学の入試では学科試験に加え実技試験が科せられます。実技試験の内容は大学や学部によって様々で異なりますが、かなりのレベルを要求されます。そのため、美大・芸大受験は相当のエネルギーを必要とし、妥協しない美の追究と自分探しの修練とも言うことができます。この美大受験の醍醐味を楽しめた時、きっと次のステップに進むことができるはずで、美大を目指すのであれば、とにかくアクションを起こしましょう。そのことによって、今自分に何が必要か自身の作品があなたに語りかけてくれるはずで、美術系大学への進学希望者またはそれを選択肢の一つに考えている人は早めに教科担当者(芸術研究室)に相談に来てください。

科目	情報Ⅰ		単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	普通科 理数科	
使用教科書	情報Ⅰ Step Forward! (東京書籍)		副教材等		『セミナー 情報Ⅰ』(第一学習社) 『ライフ イズ テック レッスン』(Life is Teck!)						
学習の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向け、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する学習活動を通して、情報社会に主体的に参画するために必要不可欠なコンピュータシヨナルシンキング(計算論的思考)の資質・能力を養っていきます。										
具体的な 取り組み・ 指導上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の情報技術の急激な変化に対応して、情報Ⅰでは「情報モラル」「情報社会」「コミュニケーション」「情報デザイン」「コンピュータ」「プログラミング」「ネットワークの活用」「データサイエンス」「問題解決」といった内容を教科書・問題集・実習・アプリケーションの活用を通して学びます。 ・情報をコミュニケーションに活用する力や、情報の主体的な選択・処理・発信に欠かせない思考力・判断力・表現力を身につけます。 ・情報機器、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用することで、知識や情報活用能力を身に付けることを重視します。 ・以上の学習活動を通して、他教科の学びに応用し卒業後の学びにつなげられることを目標とします。同時に、共通テスト『情報Ⅰ』に対応できる力を身に付けていきます。 										
月	教科書	指導単元	学習内容(番号は教科書の節番号)			備考	時数				
4 5 6	第1章	○情報社会	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション, 実習用PCの使用法等 ・01~02: 情報とメディアの基本的な知識 ・03~05: 問題解決の手法 ・06~09: 情報に関する権利, 法規や制度 ・10~11: 身近な情報技術と社会の変化 ・第1章 章末問題 			[評価対象] 学習ノート 実習課題 レポート 副教材	15				
	第3章	○プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・27~30: コンピュータの仕組み ・31~32: アルゴリズム 								
第1回考査							1				
6 7 8 9	第3章	○プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・33~35: プログラミング(Python言語) ・36~39: モデル化とシミュレーション ・第3章 章末問題 			[評価対象] 学習ノート 実習課題 レポート 副教材	13				
	第4章	○ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・40~41: 情報通信ネットワークの仕組み ・42~43: インターネットとセキュリティ ・44~46: 情報システム 								
第2回考査							1				

月	教科書	指導単元	学習内容（番号は教科書の節番号）	備考	時数
9 10 11	第4章 第2章	○ネットワークの活用 ○情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・47～48：データベースの仕組み ・49～50：データの扱い方と分析の仕方 ・51～52：仮説検定と単回帰分析 ・第4章 章末問題 ・12～13：デジタル技術の誕生 ・14～15：デジタルの数値表現の理解 ・16～20：デジタル技術の理解 ・21～22：ネットコミュニケーション 	[評価対象] 学習ノート 実習課題 レポート 副教材	17
第3回考査					1
12 1 2	第2章 第5章 第1章 ～ 第4章	○情報デザイン ○問題解決（実習） ○問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・23～26：情報デザインの理論と実践 ・第2章 章末問題 ・53～73；プログラミング言語 Python を活用しモデル化やシミュレーションの実習を行う。 ・大学入試用プログラミング言語「DNCL」 ・今年度の共通テスト「情報I」の問題を用いて問題演習を行い、情報の各分野に関する理解を深め、情報処理能力を高める。 ・まとめ ・問題演習 	[評価対象] 学習ノート 実習課題 レポート 副教材	15
第4回考査					1
評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。		事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
評価方法	定期考査における知識の定着度を問う問題の正答率と実習による課題提出等を参考に、総合的に判断する。		定期考査における思考力や表現力を問う問題の正答率やレポート等の提出物などを参考に、総合的に判断する。	定期考査の点数や提出物、授業における実習への取り組みなどを参考に、総合的に判断する。	

○ 学習のポイント

- ・これから社会の一員として参画するため文系・理系関係なく、新しいことを知り、新しいものに関わっていくことができるよう学習に取り組んでください。なお、大学1年生ではデータサイエンスが必修化されています。
- ・実習課題・レポート等の提出物は、すべて提出してください。
- ・授業の進捗状況に関わらず、教科書・副教材等を利用し、自発的に学習してください。さらにこの分野に興味関心のある人は、発展的に学ぶことを推奨します。
- ・国立大学受験では、共通テストにおいて「情報Ⅰ」が必須受験科目として課されています。3年次で情報を学ぶ授業はありませんので、2年次において共通テストの受験レベルまで完成させることを目指します。私立大学受験では、今後試験情報が公表されていきますので、各自注目してしてください。

令和6年度シラバス【総合的な探究の時間】

長野県伊那北高等学校

科目	総合的な探究の時間	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	なし	副教材等	課題研究メソッド Start Book 改訂版 (啓林館)						
学習の目標	<p>(1) 探究に関わる基本的な資質・能力を身につける。</p> <p>(2) 地域や社会・もの・ことと自分自身の関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を元に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。</p> <p>(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いの良さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようという態度を育てる。</p>								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<p>(1) 興味・関心の深い分野について、SDGsを踏まえた課題を個人で設定する。</p> <p>(2) フィールドワーク、アンケート、インタビュー等を行うことで課題解決に必要な知識・技能を得る。</p> <p>(3) 研究結果をまとめ、プレゼンをする。</p>								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 5 6	STEP 1 課題研究に 向けて	SDGsを踏まえた自分の興味・関心のある課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析 SDGsを理解する テーマ設定について 問の立て方 問に対する仮説 情報収集のしかた 			6			
7 8 9	STEP 2 課題研究 I	探究力をつける	<ul style="list-style-type: none"> 批判的思考力 情報収集、分析力 論理的思考力 		中間発表を行う	9			
9 10 11	STEP 3 フィールド ワーク	見学や体験活動を通し、課題への理解を深める 新たな問を立てる	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの意義 インタビュー、アンケート、調査のしかた 		中間発表を行う	15			
12 1 2	STEP 4 課題研究 II・発表会	1年間の成果を発表会で発表する	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンの方法 優れた発表の共有 			10			
3	STEP 5 まとめ	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動の意義の確認 			2			
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		SDGsの17の課題を理解しているか。課題の解決に必要な知識・技能を総合的、横断的に身につけているか。	自己と社会が結びついた課題が設定されているか。課題を総合的、論理的に考察できているか。探究の成果をわかりやすくまとめ、発表できているか。		情報の収集や分析、調査・実験などを積極的に行っているか。				
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 探究シートなどを集積したポートフォリオによる評価。 成果物における評価。 							

科目	理数探究	単位数	2	授業時間 [総時数]	55分 [64回]	学年	2	学科	理数科
使用教科書	理数探究基礎 (数研出版)	副教材等	なし						
学習の目標	<p>(1) 理数探究を通して特定分野の専門的知識を身につけるとともに、自らの研究が過去の研究や現在の生活と密着していることを理解する。【知識・理解】</p> <p>(2) 理数探究を通してそれぞれの専門分野を中心とした科学全般に関心を持ち、自然現象や数学について、科学的な観点から問いを見出し、解決するための力を身に着ける。【関心・主体性・多様性】</p> <p>(3) 問を解決するための検実験を行い、得られた結果から適切な考察を導く。また、その結果を論文執筆やプレゼンテーションの場面で適切な方法を用いて表現することができる。【思考力・判断力・表現力】</p>								
具体的な取り組み・指導上の注意点	<p>(1) 先行研究調査を行う。研究倫理を知る。</p> <p>(2) 問いを立て、問いに対する結論をえるための実験計画を組み立てる。</p> <p>(3) 実験計画が(2)に対して有効なものになるようにする。</p> <p>(4) 考察と結論が科学的根拠を十分に備えているようにする。</p>								
月	単元名	指導目標	学習内容		備考	時数			
4 ～ 6	STEP 1 理数探究に向けて	・グループに分かれ、課題の設定を行う。	・グループ分け ・課題設定(先行研究調査・研究計画・予備実験などを含む) ・研究計画発表会		研究分野は物理・化学・生物・地学・数学である。	18			
7 ～ 12	STEP 2 理数探究 I	・理数探究実施する。実験を計画、実行し、得られたデータに対し論理的に考え、結論を導く。	・理数探究実施 ・理数探究の方法 ・情報共有 ・中間発表(11月)			28			
1	STEP 3 理数探究 II 研究発表会	・1年間の成果を発表会で発表する。	・効果的なプレゼンの方法 ・優れた発表の共有			15			
2 3	STEP 4 振り返り	・報告集をまとめる	・論文の作成方法			3			
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		・理数に関わる学習対象について、知識を身につけ、総合的見方・考え方ができているか。	・問いと実験方法と結論の間に論理性があるか。 ・適切に成果をまとめて発表しているか。		・情報の収集や分析を、関心を持って主体的に行っているか。				
評価方法		<p>・論文による評価。</p> <p>・プレゼンテーション・ポスター発表による評価。</p> <p>・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p> <p>・出席状況。</p>							

科目	学際探究	単位数	1	授業時間 [総時数]	55分 [32回]	学年	2	学科	普通科
使用教科書	なし	副教材等	課題研究メソッド 2nd Edition (啓林館)						
学習の目標	<p>(1) 探究に関わる基本的な資質・能力を身につける。</p> <p>(2) 地域や社会・世界・もの・ことと自分自身の関わりから問いを見出し、その解決に向けて様々な角度から考えたり仮説を立てたり調査して得た情報を元に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身につける。</p> <p>(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いの良さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようという態度を育てる。</p>								
具体的な取り組み 指導上の注意点	<p>(1) ESDの視点に立ち、学際コースならではの共通テーマを設けて研究を進める。</p> <p>(2) 興味・関心の深い分野について課題を個人で設定し、研究を進める。</p> <p>(3) フィールドワーク、アンケート、インタビュー等を行うことで課題解決に必要な知識・技能を得る。</p> <p>(3) 研究結果をまとめ、プレゼンをする。またレポートにまとめる。</p>								
月	単元名	指導目標	学習内容	備考	時数				
4 5 6	STEP1 共通テーマ 課題研究0	・共通テーマを軸に視野を を広げ、視座を高める ・自分の興味・関心のあ る課題を見つける	・自己分析 ・ワークショップ ・問の立て方 ・問に対する仮説		6				
7 8 9	STEP2 課題研究I	探究力をつける 課題を設定する	・批判的思考力 ・情報収集、分析力 ・論理的思考力	フィールドワーク(夏 期休業中、各自) 中間発表を行う	9				
9 10 11	STEP3 課題研究II	見学や体験活動を通し、 課題への理解を深める 新たな問を立てる	・研修旅行に向けて ・各自の研究を進める	中間発表を行う	15				
12 1	STEP4 課題研究 III・発表会	1年間の成果をまとめ、 発表会で発表する	・パワーポイントの作成 ・効果的なプレゼンの方法 ・優れた発表の共有		10				
2 3	STEP5 まとめ	振り返り	・レポート作成 ・研究活動の意義の確認		2				
評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
		問いを立て、RQにつな げていけるか。課題の解 決に必要な知識・技能を 総合的、横断的に身に つけているか。	自己と社会が結びついた課題 が設定されているか。課題を総 合的、論理的に考察できている か。探究の成果をわかりやすく まとめ、発表できているか。	情報の収集や分析、調査・実 験などを他力本願にならず、 積極的に行っているか。					
評価方法		<p>・探究シートなどを集積したポートフォリオによる評価。</p> <p>・成果物における評価。</p>							